

令和2年(ネ)第284号

石木ダム建設工事並びに県道等付替道路工事続行工事差止請求控訴事件

控訴人ら 岩下和雄外

被控訴人 長崎県外1名

意見陳述書

2020（令和2）年10月8日

福岡高等裁判所第1民事部 御中

控訴人 岩下すみ子

私はいま、ダム事業の収用地に指定されている土地に夫と息子と3人で暮らしています。私は佐世保出身で24歳のときに岩下家に嫁ぎました。その後、夫の母、近くに住む姉たちとともに、こうばるで暮らしてきました。もう40年以上が経ちます。

みなさんは「川原（こうばる）のうた」を知っていますか。歌詞を読み上げます。

春は黄色の 帯のよう
石木川に寄り添って
水辺の菜の花 どこまでも

初夏は日暮れて 帰り道
石木川のほとりでは
ふわふわホタルが飛んでます

ここは こうばる ホタルの里

自然を守る人が住む

秋の棚田は 黄金色
石木川に吹く風が
野辺のコスモス揺らします

冬は風花 舞い落ちる
石木川のふるさとは
気高くそびえる 虚空蔵山

ここは こうばる ホタルの里
ふるさと愛する人が住む

こうばるの四季の美しさとかうばるを愛する私たちの思いがいっぱい詰まった歌です。今は秋です。つい先日まで棚田には稲穂が頭を垂れ、田んぼに沿って彼岸花が咲いていました。今年は格別にたくさんの彼岸花が咲きました。今はコスモスが咲いています。

みなさんは、この歌詞を聞いて、こうばるが、自然豊かな場所だと想像していただけたのではないのでしょうか。

では、こうばるが四季折々に自然豊かで、沢山の恵みをもたらしてくれるのは、ここに住む私たちがこの自然と共に生き、こうばるを大切に守ってきた結果だと想像できましたか。山や川、田畑、美しい自然は、ただそこにあるわけではありません。

私たちは、菜の花、彼岸花、コスモスなどが野辺に美しく咲くように草刈りをします。コスモスの種を保存し、次の年に備えます。初夏にはホタルが飛び交うように川を汚さず、真夏には子どもたちが川で

思いっきり遊べるように川辺の草刈りをします。おいしい米や野菜が採れるように、その米や野菜を食べた時に「今年もおいしいね」と笑顔で食卓が囲めるように、遠くの子どもたちにも送ってあげられるように、毎日、毎日、土を耕し、草を抜き、水をやります。毎年毎年、毎日毎日同じことのように見えても、その一つ一つの作業の中にいっしょに暮らす家族の顔、遠くに住む子どもたちの顔、一緒に収穫を喜び合う近所の人たちの顔を浮かべ、こうばるの自然に感謝しています。

この土地、自然、そして暮らしを守ってきたのは、私たち13世帯だけではありません。父や母、おじいちゃん、おばあちゃん、そして何代も前のご先祖様が何十年も何百年も共に生きて、守ってきました。私たちはこうばるを次の世代に引き継ぐために預かっているのです。

そして、こうばるにはもう一つの顔があります。

私が岩下家に嫁ぎ、こうばるに暮らし始めたころから、石木ダムの問題はこうばるの人々を苦しめていました。ですが、私の一つ上の世代の女性たち、「ばあちゃんたち」は、強制測量が行われたとき「やるなら自分たちを殺してからやれ」と叫び、決して屈することはありませんでした。

私はその「ばあちゃんたち」の言葉を聞き、「ばあちゃんたち」がこうばると家族の暮らしを石木ダム事業から守り抜く姿を目に焼き付けてきました。こうばるは、無用な事業から守り抜かれてきた場所なのです。

私は、先祖が育て、守り抜いてきたこうばるの暮らしに満足しています。何一つ不自由はありません。むしろ、自分も年を重ね、新しい楽しみやこうばるの良さを発見しています。私たちの仲間も同じで

す。私たちは今の暮らしに満足し、この場所に仲間とともに暮らし続けたい。ここで、人生を全うし、次の世代に引き継いでいく、そういう人生を私は選んでいます。

ですが、私の選択は、石木ダム事業によって、踏みにじられようとしています。

いまは付け替え道路工事によって、毎日毎日山が削られています。私の家の2階からも削られていく山が見えます。山が削られ、風の流れ方も、川の流れも変わりました。その変わりゆく山の姿を見ることはつらくて、工事を止められないことや次の世代に残せないのだろうかと思うと胸が苦しくなります。

でも、佐世保の仲間、長崎、その他の県、全国、世界から本当にたくさんの人たちが、私たち13世帯がこうばるで生きていくんだという選択を応援してくれています。応援してくれている人たちは、たったの何人か何十人かの人々が計画した、しかも必要のない石木ダム事業に屈しない私たちの姿に共感し、先祖が守ってきた自然、山、川、田んぼ、ホテル、花、それを受け継ぎここで生きていこうと決めた私たち一人一人の生活とその決断に、心を寄せ、賛同し、見守ってくれているのだと思います。

「こうばるで生き続ける」

この私の選択が、私たちの人生が、たった何人か何十人かが決めた石木ダム事業に踏みにじられ、私たちが何十年もの間、重ねてきた「暮らし」が強制的に排除されようとしています。そんなにも私や13世帯の人生や決断は、軽いものなのでしょうか。私たち13世帯を少数者だとして切り捨てないでください。私たちはこうばるに生き続け、これからも生きていきます。

以上